

遠藤吉比古
(ピアノ)

岩室村和納在住。
新潟大学教育学部特設音楽科ピアノ科卒業。
新潟県音楽コンクール審査員。
新潟中央高校音楽科非常勤講師。
遠藤吉比古ピアノ教室主宰。



早川 文子
(コーラス泉指導)

国立音楽大学教育音楽科卒業。
和納に在住し自宅で音楽教室を開きピアノを教える傍ら、コーラス泉の指揮をしている。



本間 千華
(ソプラノ)

岩室村出身。国立音楽大学声楽科2年。
12月に国立音楽大学オペラ研究会主催による「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナとして主演。



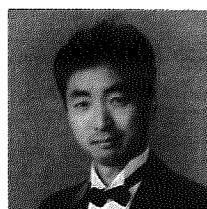
大成 勝代
(アルト)

新潟大学教育学部音楽科を卒業。富山県立雄峰高校に勤務。魚津市在住。



松浦 良治
(テノール)

武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。
1976年～1982年ウィーン留学。現在、新潟大学教育人間科学部教授。
新潟市在住。



星野 克美
(バリトン)

東京芸術大学音楽学部声楽学科卒業。
ジョイント、ソロリサイタルを始め多くの演奏会に出演。現在新潟中央高校教諭。新潟市在住。



コーラス泉
(合唱)

4年連続「全日本お母さんコーラスフェスティバル」の県代表として関東大会への出場を果たす。現在は団員10名で活動。

～『音楽に親しむタベふれあいコンサート』で初の試み村民113名が大合唱～

声高らかに“第九”合唱響く

昨年11月25日、岩室小学校体育館で「音楽に親しむタベふれあいコンサート」が開かれ、村内外から800名が訪れ、ドイツの弦楽アンサンブルの演奏や、村民らによる第九合唱に耳を傾けました。

今回で19回目を迎え、村民の中でも、すっかりおなじみの音楽に親しむタベふれあいコンサート。今回は、21世紀の幕明けに刻む輝かしい内容にしようと、村生涯学習推進本部と同コンサート実行委員会（広野孝二委員長他20名）が企画し、村民参加のふれあい合唱団の結成が実現しました。

当初は、140名を超える一般参加者の希望（中学生を除く）があったものの、残念ながら途中リタイヤし、結局、中学生38名を含め、113名となった団員は、4月から、厳しいレッスンを重ね、この日を迎えました。当日、コンサートの第1部は、平成7年に続き2回目の来村となるシュツット・ガルトゾリ

ステン（独）のメンバー6名に、遠藤吉比古さんが加わり、モーツァルトのピアノ四重奏曲や、ドボルザークの弦楽六重奏曲が演奏され、会場はやさしい旋律に包み込まれました。その後、第2部では、まず村のコーラスグループ「コーラス泉」が登場し、早川文子さんの指揮のもと、「カチューシャの唄」を披露しました。

クライマックスは、シュツットガルト・ゾリステンのメンバーと遠藤さんの演奏、合唱団にソリストが加わり、ベートーヴェン作曲交響曲第九番「合唱」より第4楽章を大合唱。これまでの成果を存分に歌い上げた皆さんには、会場から大きな拍手と「ブラボー」の声が増られていました。



シュツットガルト・ゾリステン6年ぶり参加

シュツットガルト放送交響楽団のトップメンバー6名が1970年に結成した弦楽アンサンブル。透明感のあるリズムとイントネーション、幻想的なバランスの響きで国際的に反響を呼ぶ。特にブラームスの六重奏曲は高い評価を受け1990年来日以来、日本でも多くのファンを持つ。